

Industry
Dialogue
Society Environment Economy
Connected World
Resilience Relationship
Global SDGs IoT
Economy
AI Industry
Mobility Support
Safety Culture Manufacturing
Smart Agriculture 対話型社会
IoT Clean Energy
Dialogue Resilience Relationship
SDGs Technology
AI Society Environment Economy
Interactive Communications
Infrastructure
Dialogue
Safety Culture
Industry
Global History
Society
Economy

吉岐・粋・好 Society5.0

100年後もみんながイキイキと暮らす島に

-吉岐なSociety5.0の実現-



壱岐市で目指すスーパーシティ（概要）

目指す未来

市民一人ひとりの幸せが、壱岐全体の幸せとなり、
地球の幸せにつながる未来
(人の幸せと自然が共生する暮らしの実現)

市民と成し遂げたい
こと

世界で一番、自分らしさが輝く島になる
(自分の人生に夢中になれるよう後押し)

実現への道筋

教育・仕事支援を起点として、市民との共創による
課題解決を図りながら、取り組みの輪を広げていく
(循環しながら発展していく仕組みを構築)

達成したい目標

電子市民（※）を含む市民の数を、2030年までに
50万人にする
※壱岐に住所はないが、壱岐に愛着を持ち、壱岐の様々な活動に参加する人

主な事業内容
(先端的サービス)

電子市民制度、電子地域通貨、対話プラットフォーム、
オンライン教育、MaaS（※）等の実装・連携
※様々な交通手段を1つのサービスとして提供

解決される課題

市民が抱く様々な課題の根源的な原因である人口減少、
少子高齢化は、これまでの方法では解決できなかったが、
複数の先端的サービスを連携させることで解決を図る

OUR VIEW

目指す未来





志岐市

人の幸せが、島の幸せになる 個を起点とした 「じぶんごと」のまちづくり

市民一人ひとりが抱える「個人の課題」の延長としての
「社会の課題」を設定し、だれもが
まちづくりに参加できる仕組みを確立。
市民の幸せが島の幸せに直結するような
人、社会、自然の関係を作ります。

テクノロジーは、より良い生活の手助けをしてくれます。
しかし、まちづくりの主役はあくまで人と地域。
私たちが考えるスーパーシティでは、
100年後も人々が生き生きと生活できる島を目指します。
豊かな自然。自給自足の循環型社会。自分らしさを大切にできる暮らし。
こういった志岐らしさをテクノロジーが裏で支えます。

※スーパーシティ：2030年頃に実現される最先端都市構想



意思を持って活動を始めた市民と行政とが共創を通して、様々な課題を解決していく。



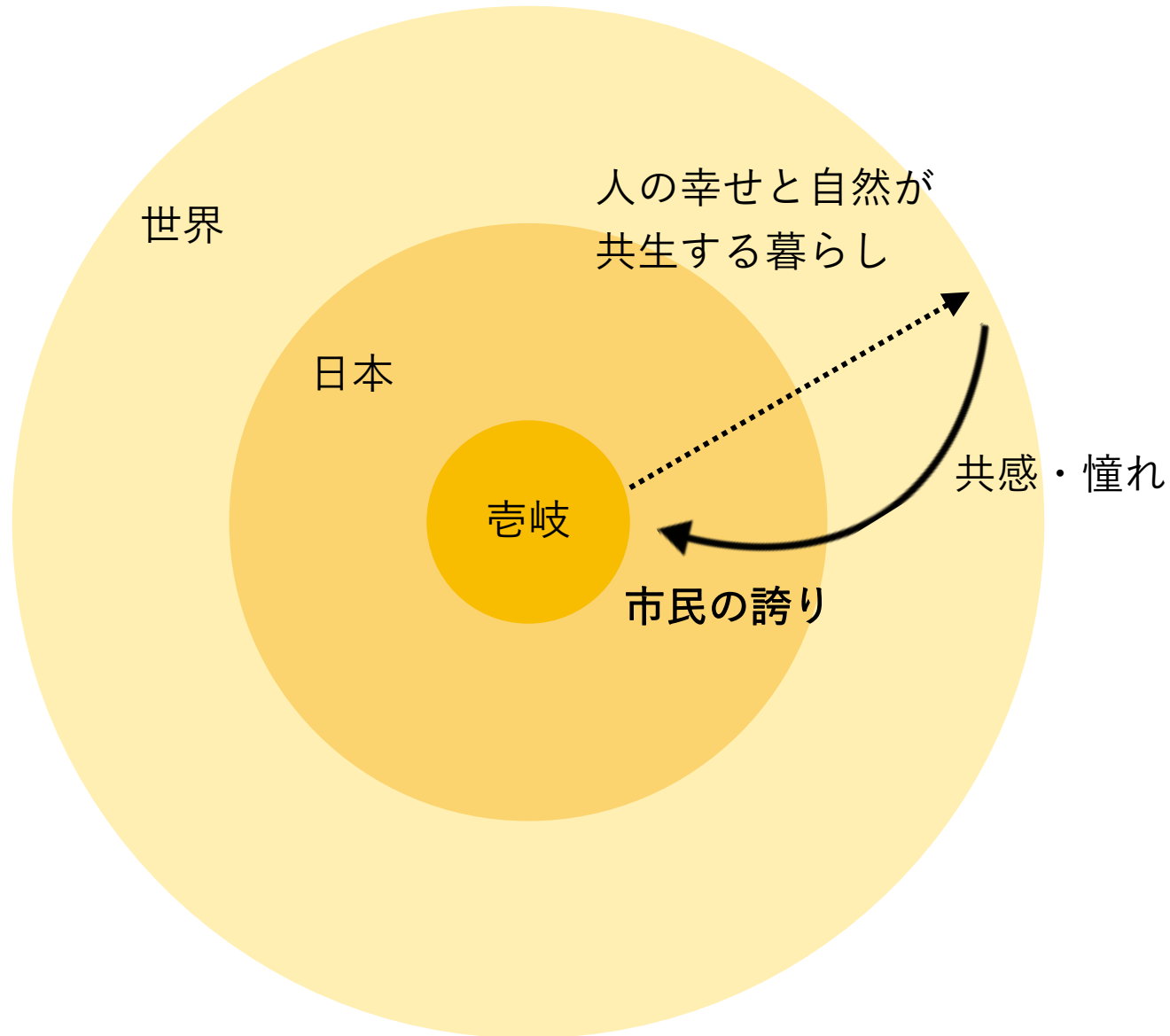
市民が自らの心に従って人生をデザインし、具体的な行動を起こすことができる仕組みを作る。



地域・社会の課題を解決するだけでなく、人と自然とが共生していける社会を実現する。



日本各地や世界に人と自然とが共生できる生き方を広めていく。それを壱岐市民の誇りとしている。



島の魅力に気づくには 島外からの評価も必要

人と自然が共生する社会を、
壱岐モデルとして
日本の他の地域や海外へ広げます。
島の外からも共感され、
憧れの対象になることで、
壱岐市民の誇りにつなげます。



自分の人生をデザイン

- 自分自身の人生を決めるための教育を受けている
- 肉体的・精神的・社会的に健康
- 時間と収入のバランスを考えた新しい働き方をしている
- 社会に積極的に貢献し、長期的な幸福度が上がっている
- 家族や友人との親密な関係、近所の人と良好な関係を築き、趣味を持っている

暮らしをデザイン

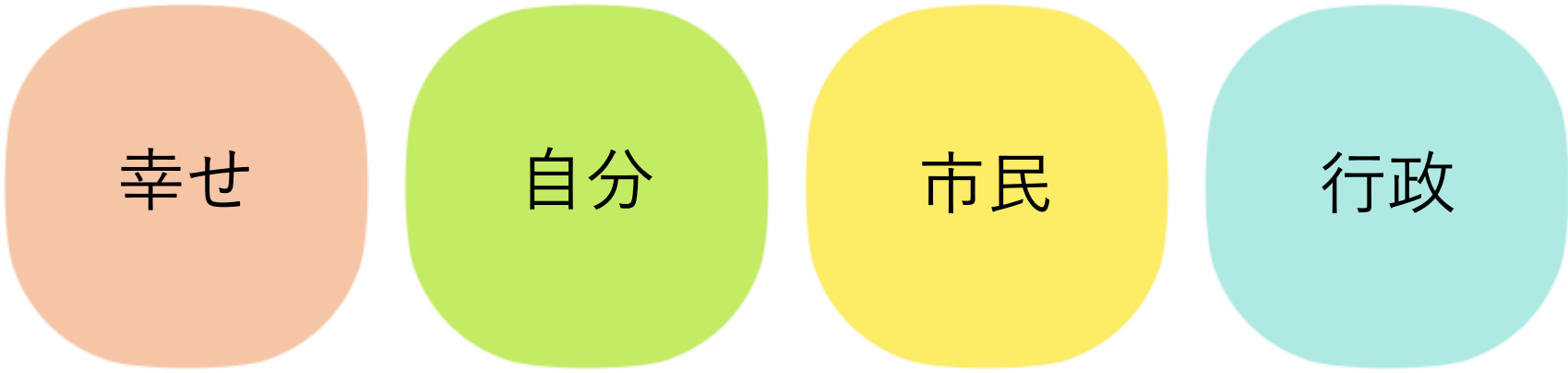
- 市民が自然と共に生き生きと生活している
- 貧困層や社会的弱者の人も幸福を感じている
- 新しいアイデア・ビジネスが多発している
- 柔軟な働き方により、人口が増加している
- 産業の競争力も上がり、経済が活性化している
- 社会貢献が活発になり社会全体の幸福度が上がっている
- それぞれが信頼し、支え合うコミュニティが多発することで、安心・安全な社会が築かれている

残したい未来をデザイン

- 環境に負荷の少ない持続可能な暮らしが根付いている
- 地域の課題解決がロールモデルとしてシェアされ、自治体や国を超えて連携している
- 暮らし方に自由で多様性があり、社会が開かれている

人、社会、自然それぞれの幸せを連携させるために裏方としてテクノロジーを活用

人の新しい豊かさに関連する4つの再定義



幸せ

自分

市民

行政

幸せの再定義

社会に合わせるから
自分に合わせるへ

社会のルールやモノサシの中での
成功ではなく、
自分が本当にありたい姿を見つけ、
自分のモノサシで生き方を決めている
ことが幸せ。

人それぞれの歩み方やスピードに合わせて
機会を提供できる社会を目指します。

自分の再定義

一つだけの個人から
多面的な分人へ

社会の中で異なる顔や役割を持つのが、
これからの社会のスタンダードです。
兼業や自営業の多い壱岐は、
新しい生き方の先進地域と言えます。

そんな暮らしを目指す
移住者や多拠点生活者も積極的に
受け入れることで、
良い刺激を呼び込みます。

市民の再定義

住民票から エンゲージメントへ

「市民」は壱岐に住民票を持つ人に限りません。
多拠点生活の拠点として壱岐を選ぶ人、
旅行をきっかけに壱岐のファンになった人、
そうした人々をすべて「壱岐市民」ととらえ、
権利と責任を再定義。

e-市民（電子市民）の仕組みを確立し、
世界中に壱岐市民を増やしていきます。

※エンゲージメント：壱岐に対して愛着を持ち、
一体となって成長し合える関係

行政の再定義

管理者から
能動的なサポーターへ

市民が本当に必要としている支援は何か。
リクエストを待つのではなく、
能動的な旗振り役として、
市民一人ひとりの要望や可能性を
引き出していきます。

多様な生き方を前提に、
ニーズや声に寄り添った支援を行います。

OUR MISSION

市民と成し遂げたいこと





世界で一番 自分らしさが 輝く島へ

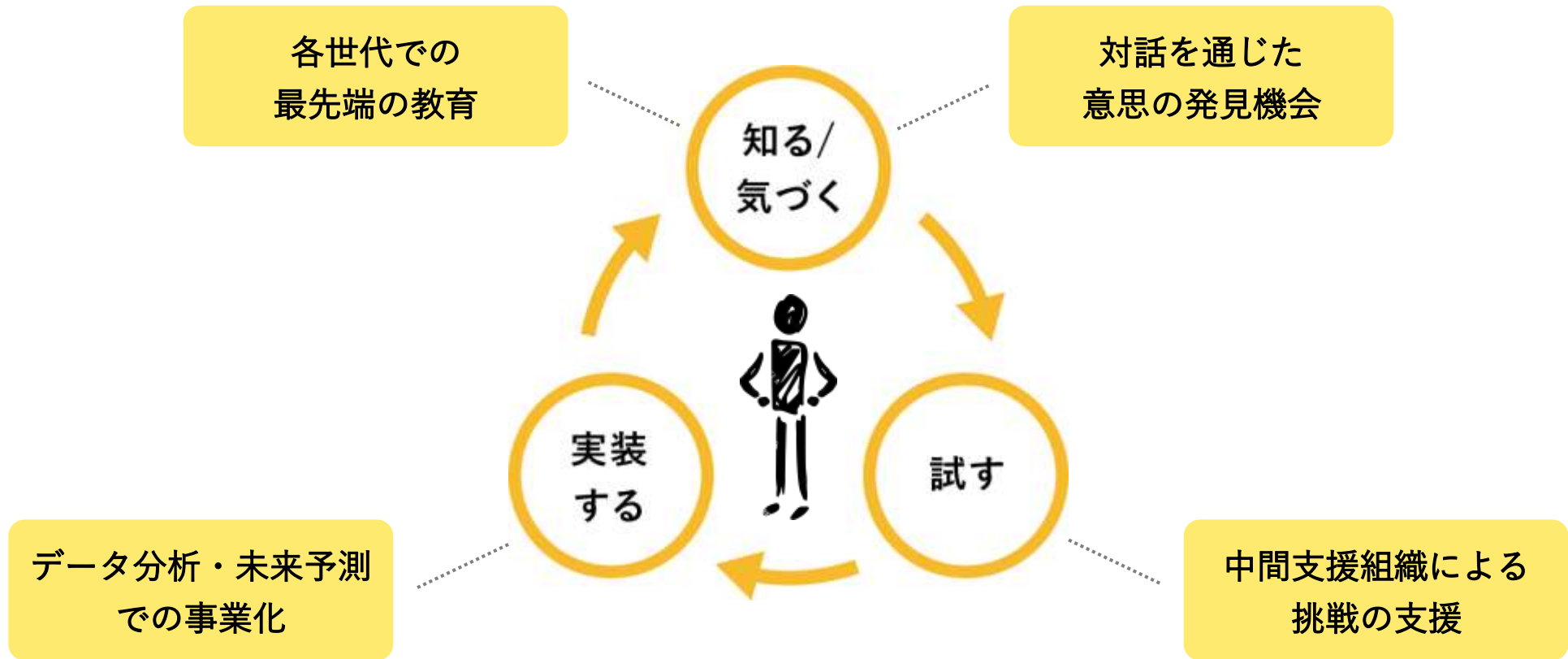
市民全員が新しい時代の「のぼせもん」として自分にとっての幸せな生き方に夢中になれる。行政の役割は、そのサポートです。市民が自分らしい生き方や暮らし方を見つけ、主体的にデザインできる仕組みを壱岐モデルとして確立させます。

※新・のぼせもん：何事にも夢中になれる人、自分の人生に情熱を持って生きている人

市民が自分らしく生き生きと暮らせるようになる。

名付けて…

「新・のぼせもんサイクル」



各世代での 最先端の教育

対話を通じた
意思の発見機会

中間支援組織による
挑戦の支援

データ分析・未来予測
での事業化

【教育を変える】

世界最先端の教育コンテンツの提供

オンラインを活用して、世界中で壱岐でしかできない
アクティブラーニング（能動的学修）を提供します。

学生へは世界的ビジネスコンテストとの連携、
社会人へは海外の大学とタッグを組んだ
世界最先端のイノベーター育成プログラムを提供。
誰でも世界最先端の教育を受けられます。



テレワーク推進とSDGs教育

2017年にテレワーク施設を開設し、年間約3500人が
利用。慶應義塾大学SFC研究所のラボオフィスも開設。
また、東京大学等との連携による島内の学生へのSDGs
教育プログラムも開発。

各世代での
最先端の教育

対話を通じた
意思の発見機会

中間支援組織による
挑戦の支援

データ分析・未来予測
での事業化

【コミュニケーションを変える】

対話プラットフォームの開設

時間や場所にとらわれず、議論を活発にするための
オンライン上の仕組みを整備します。

このことにより、多様な市民の意見を集め、
議論を集約し、政策に結びつけていきます。
また、デジタル民主主義を推進することで、
今まで政治に興味を持たなかった若い層も巻き込んで
いきます。



みらい創り対話会

2015年から富士ゼロックスと連携し、コミュニケーション技術を活用した住民対話会を開催。

これまでに2000人以上が参加し、市民がオーナーの約50のテーマが生まれ、その7割以上が実現。

各世代での
最先端の教育

対話を通じた
意思の発見機会

中間支援組織に
よる挑戦の支援

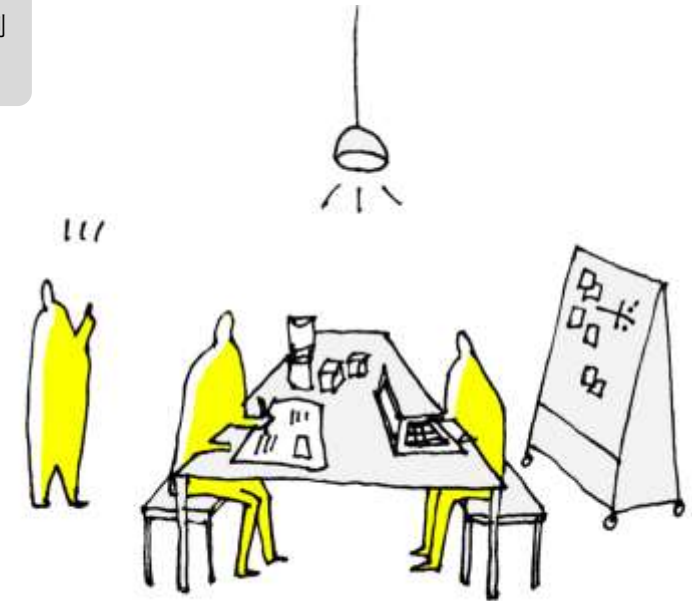
データ分析・未来予測
での事業化

【支援方法を変える】

新しい形の中間支援組織の立ち上げ

ヒト・モノ・カネを循環させる
中間支援組織を立ち上げます。

行政を中心に企業、市民が参画する組織による
人材・情報・資金の様々な方法で、
市民の夢の具体化を支援します。



（一社）壱岐みらい創りサイト

2016年に壱岐市と関係企業・団体とで立ち上げた中間支援組織。

実行責任者として、対話会・テレワーク・SDGsなど、全国のモデルとなっている壱岐市の地域創生事業を牽引。

各世代での
最先端の教育

対話を通じた
意思の発見機会

中間支援組織による
挑戦の支援

データ分析・未来
予測での事業化

【ビジネス化を変える】

AI未来予測による企業支援

ビッグデータやAIを駆使して
最適な形でのビジネス化を支援します。

購買統計データやその他のデータを組み合わせ、
AIで解析して状況を可視化。

まちの現状を正しく把握した上で、
効果的な仮説立案や取り組みの判断を行うことが
できるようになります。



雇用機会拡充事業（有人国境離島法）

2017年に有人国境離島法が施行され、航路・航空路の
運賃低廉化、輸送コストの支援、滞在型観光の促進、
雇用機会の拡充といった各種施策が開始。

この制度により、4年間で88社が起業・事業拡大を実施。

OUR APPROACH

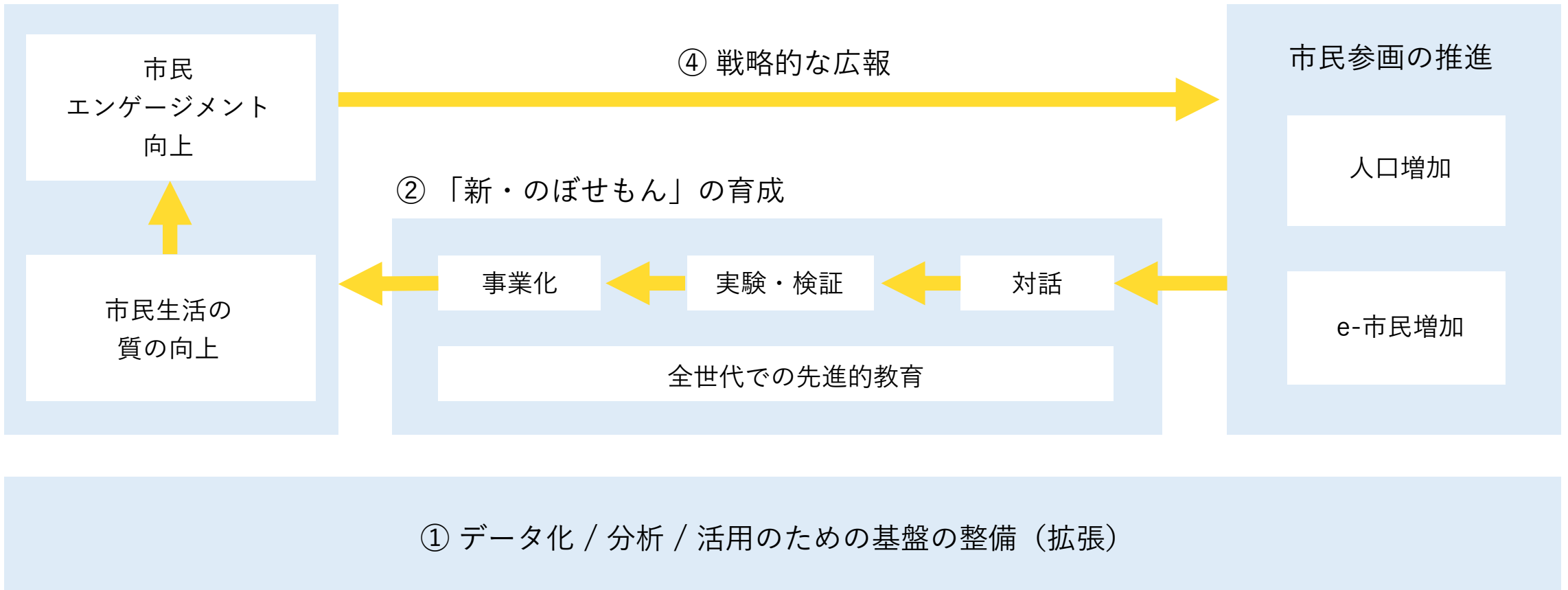
実現への道筋



「新・のぼせもん」を育成し、その効果を測定、戦略的に広報していくことで、取り組みの輪を広げていきます。まずは、行政主導で土台を構築し、循環させながら、段階的に発展させていきます。

③ エンゲージメントの測定

⑤ 取り組みの拡大



データ活用基盤

市民の幸せにつながるデータの活用

エンゲージメントの可視化

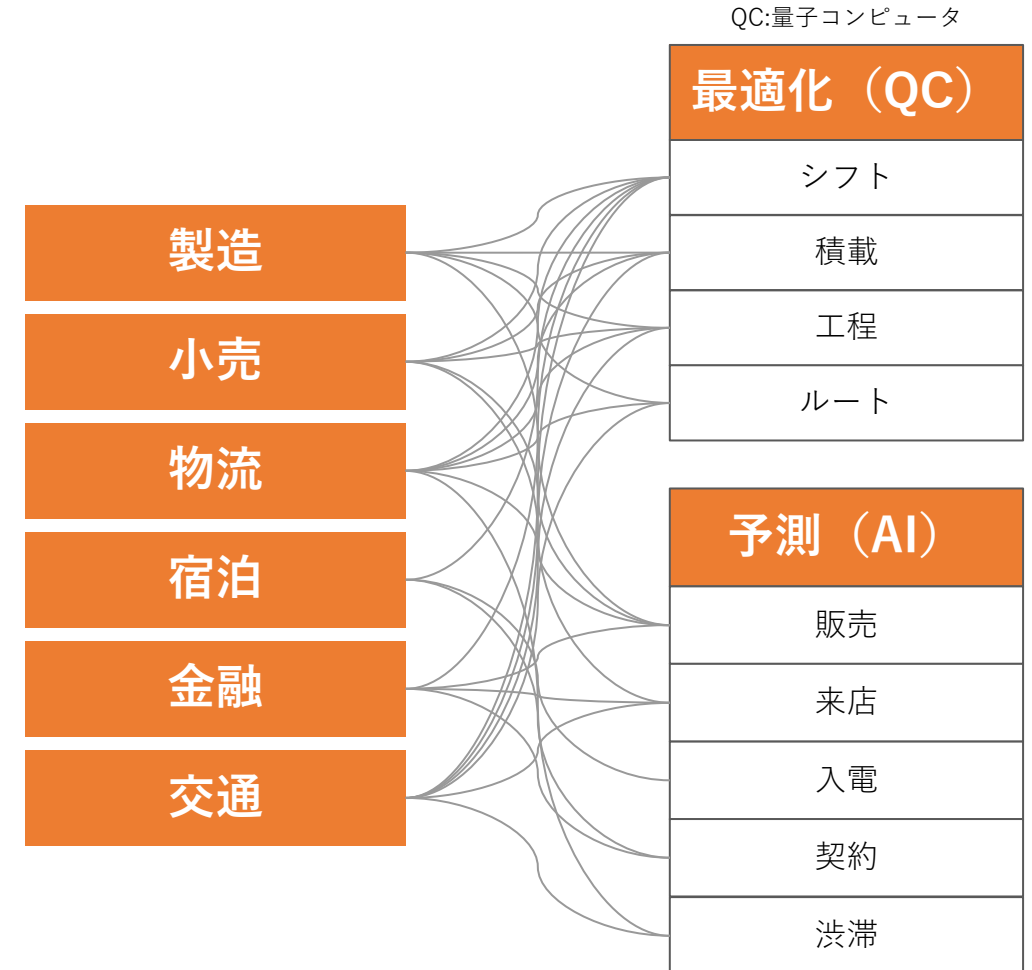
市民の拡張

データ活用基盤 - 市民の幸せにつながるデータの活用

地域の特性を捉えたデータ活用

島全体を連続性のあるサービス空間として捉え、様々なデータを分析・連携させることで、市民にとって価値あるデータ活用を行います。

例えば、来島者の傾向分析データを活用し、仕入れや人的資源などを最適化することで、限られた資源で豊かなサービスを実現。また、個人情報のない状態で結果をオープン化することにより、新たな産業育成を行うインフラとしても活用を行います。



データ活用基盤

エンゲージメントの可視化

対話型の地域開発の実現

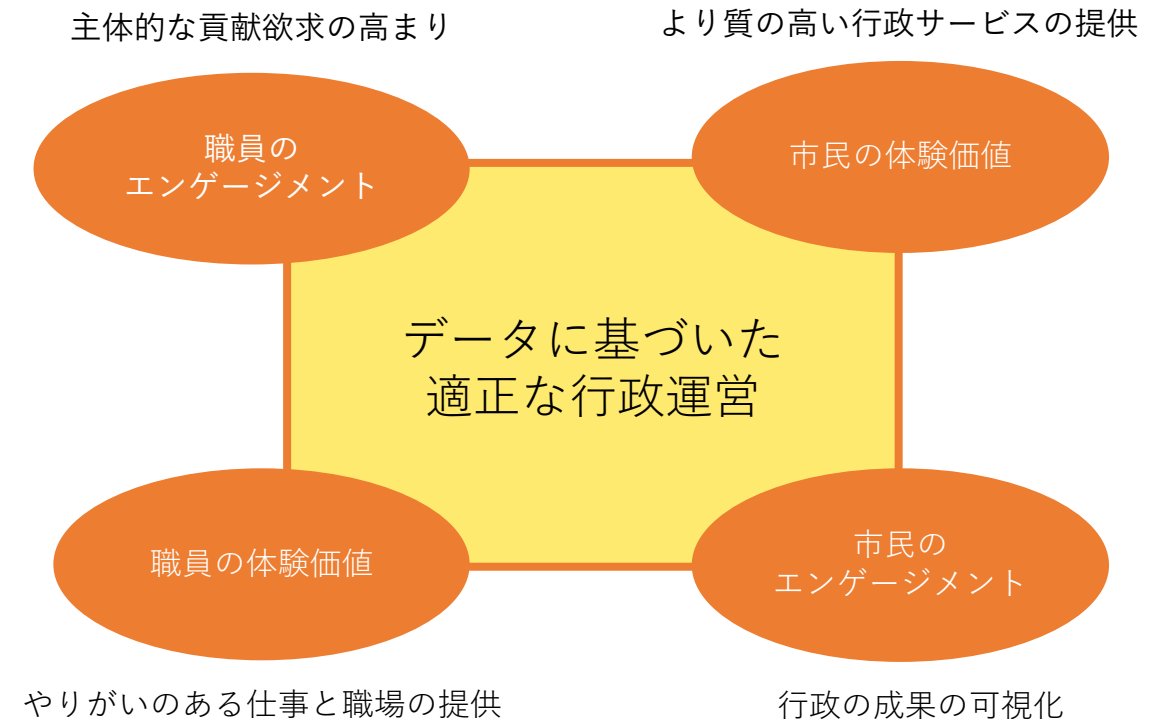
市民の拡張

エンゲージメントの可視化 - 対話型の地域開発の実現

市民の意識に基づいた行政運営

市民の意識（愛着・課題感）のデータ化を行います。このデータに基づいて、行政運営も進化させることで、さらなる市民エンゲージメントの向上を図ります。

（市民のエンゲージメントにより、市役所の主体的な貢献欲求が高まることで、より質の高い行政サービスが提供され、結果として市民のエンゲージメントが向上する循環）



データ活用基盤

エンゲージメントの可視化

市民の拡張

地域を超えたまちづくりへの参加

市民の拡張 – 地域を超えたまちづくりへの参加

e-市民制度

e-市民制度を整備することで、壱岐に住んでいない人もまちづくりに参加できるようになります。

e-市民には納税義務や選挙権はないですが、壱岐のファンクラブとして、定期的に壱岐を訪れたり、壱岐の商品を購入してくれたり、知識や情報を届けてもらえる仕組みを作ることで、住民の豊かな暮らしにつながります。

壱岐市のファンが増えれば、「壱岐市民」としての誇りが高まり、それが行動につながり、まちに好循環を生み出します。

行政サービスのほぼすべてを電子化し、全世界に電子国民を持つエストニア

バルト3国のひとつで人口約130万人のエストニアでは、電子政府システムを完備。行政手続きのほぼすべてをオンラインで済ませることができる。

また、2014年に世界で初めて電子国民プログラムを開始。電子国民になれば、エストニア国籍を持っていなくても、国外にいながら同国の電子政府のシステムを利用することができ、法人の設立などが行える仕組みを確立した。

市民の意識変容から始まる改革

ひとの变革

Step 1

ひとの变革

新・のぼせもん
マインドの育成



生活や仕事の上での取り組みを含むまちづくりに主体的に取り組む。取り組むからもっと好きになるという「新・のぼせもん」思考のサイクルを作る。

Step 2

行政の变革

市民と行政を
共創の関係に



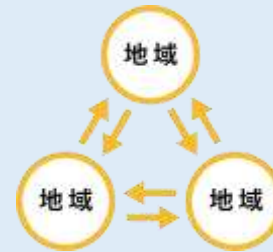
市民のニーズを能動的に拾い上げ、言語化できていない困りごとや要望に応えるためのシステムと仕組みづくりを行う。

地域の变革

Step 3

まちの变革

信頼関係やネット
ワークの形成

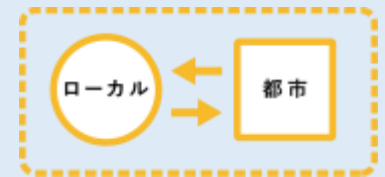


それぞれのまちが持つ強みや魅力を磨き、情報発信することで、住民同士の信頼関係や地域間のネットワークを形成する。

Step 4

区域の变革

新しい生活様式の
推進



都市の便利さと地方ならではの豊かな暮らしの両方が享受できる新しい生活様式を、行政区域を超えて補い合うことで推進する。

OUR GOAL

達成したい目標



持続可能な離島モデルとして バーチャル政令指定都市に

2030年までに市民（e-市民を含む）を50万人まで増やし、
人口増加率日本一を目指します。
住民と多くのe-市民が壱岐に愛着を持ち、
お互いに成長し合うことで、
持続可能な離島モデルを作っていきます。

「一生、壱岐市民」

壱岐在住高校生 (18)

高校を卒業し、東京の大学に進学。物理的に住む場所は変わるけれど、壱岐市民としての意識は変わらない。壱岐が発行するお得なポイントを利用して、東京の友人を連れて島へは頻繁に帰る予定。将来は東京の企業で働きながら、島でも事業を起こし、二拠点生活を送るイメージを持っている。



「就職よりマイクロ起業」

壱岐出身元会社員 (28)

地域の食材を生かした地産地消の飲食店を起業。健康志向の旅行者が訪れるレストランとして様々なメディアでも紹介される人気スポットに。きっかけは、海外からも参加がある人気の起業家プログラム。とれたての新鮮な食材を使う、島での「当たり前」が壱岐の強みになりうることに気がついた。



「教育はセルフカスタム」

壱岐在住小学生の母 (32)

小学生の娘は、地元の小学校と海外と連携しているオンラインの学校を組み合わせで学んでいる。地域の少人数制と最先端の教育のいいとこどりはベストバランス。以前は高校進学と同時に島外へ出る子どもも多かったが、娘はこのまま島に残りたいと言っている。留学生の受け入れもしてみたい。



「島内ジョブローテ」

壱岐在住旅館女将 (54)

夏休みシーズンはとにかく忙しいので、夏季に仕事が減る地元の焼酎メーカーの従業員を派遣してもらっている。逆に閑散期はうちの従業員に酒蔵を手伝いに行かせている。通年で安定して仕事があるので、安心してスタッフを雇うことができるし、島外からのリゾートアルバイトも長期滞在が可能になった。



「サブスク島ライフ」

福岡在住会社員 (40)

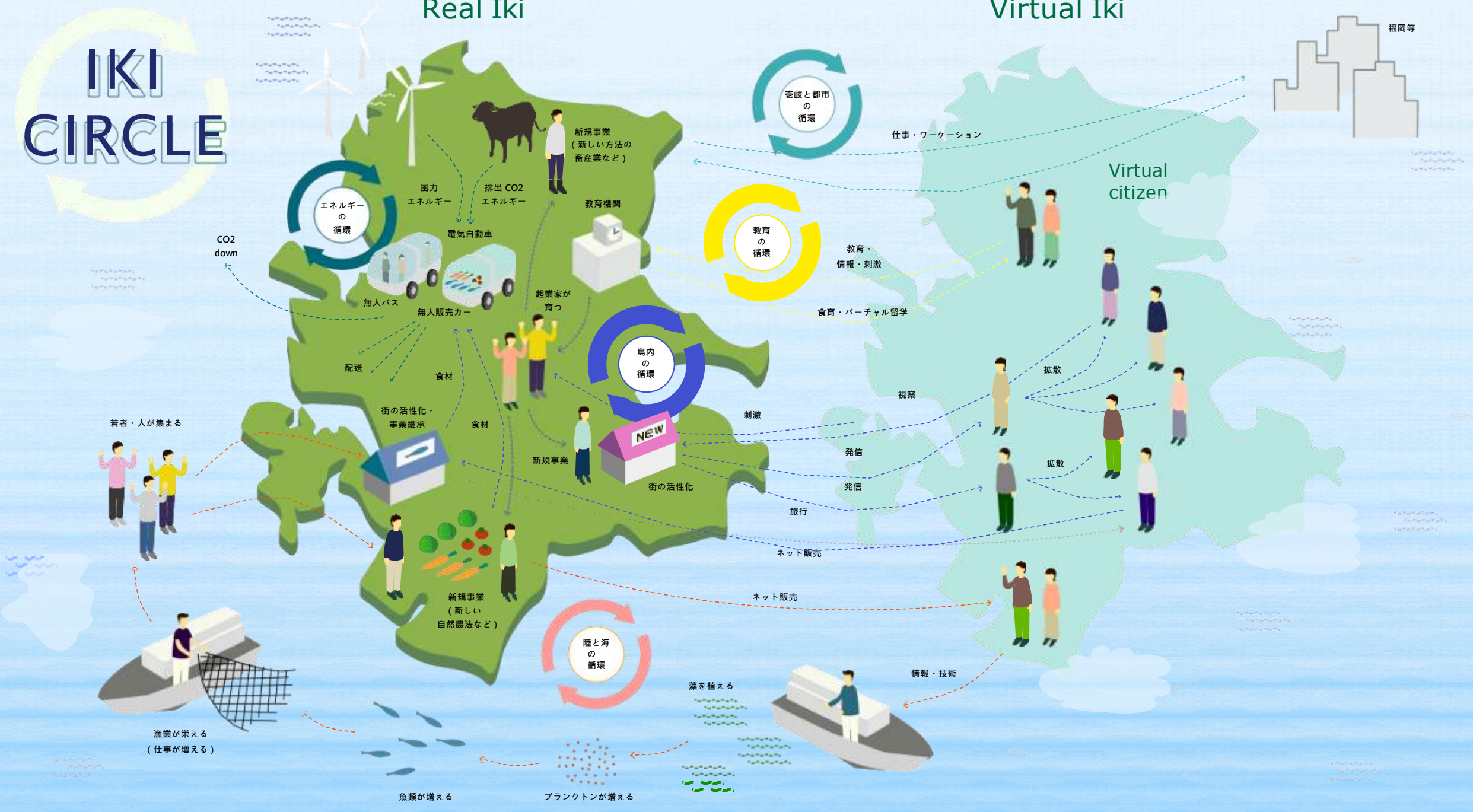
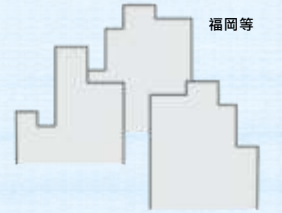
福岡のIT企業で働きながら、壱岐との2拠点生活を送っている。壱岐では市が運営するシェアハウス利用なので安い家賃で住めるし、不在時のケアも安心。仲間と一緒になので、地域のコミュニティにも入りやすい。車を持っていないので、壱岐ではシェアカーを利用している。



IKI CIRCLE

Real Iki

Virtual Iki



壱岐から日本へ。そして、世界へ。